

入選

おばあちゃんからもらったマスク

徳島県 徳島文理小学校

一年 加藤 彩

きんじょのおばあちゃんとは、コロナがはやりだしたころ、わたしや、おとうさん、おかあさんに、手づくりのぬののマスクをくれたのでなかよくなりました。マスクは、リボンや、花、しましまのもようで、ぜんぶかわいいので、わたしはうれしくてニコニコしました。

おばあちゃんは、ニコニコしたわたしをみて、もっとニコニコしていました。

でも、おばあちゃんとは、あんまりおはなししたことがなかったので、はずかしくてきちんとおれいをいえませんでした。だからわたしは、

「きちんと、ありがとうといたい。」

とおもって、おばあちゃんに「ありがとう」のてがみと、えをかいてわたすことにしました。てがみには、マスクをもらってうれしかったこと、マスクをつくれるなんてすごいなあとおもったこと、そして、ありがとうのきもちをかきました。

えには、おばあちゃんとわたしと、わたしのかぞくのえをかきました。

(よろこんでくれるといいなあ。)

とおもって、ドキドキしながらおばあちゃんにわたしました。

おばあちゃんは、ニコニコしてよろこんでくれました。そして、

「あやちゃんが、20さいになるまで、たいせつにもっておくね。20さいになったら、いっしょによもうね。」

といてくれました。わたしはとてもうれしくて、やさしいきもちになりました。

おばあちゃんとは、それからずっとなかよしです。でも、おはなしをするときは、マスクをしているので、おばあちゃんのおかおがよくわかりません。きっと、ニコニコしているのだろうなあとおもいます。

「マスクをはずしておはなしできる日が、くるといいなあ。おばあちゃん、わたしにいつもしんせつにしてくれてありがとう。ずっとげんきでいてね。」